

2026年2月24日

各位

小野薬品工業株式会社

韓国においてオブジーボとヤーボイの併用療法による治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) またはミスマッチ修復機能欠損 (dMMR) を有する成人結腸・直腸がんに対する効能または効果の追加承認を取得

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：滝野 十一、以下、小野薬品）は、韓国の現地法人である韓国小野薬品工業株式会社（所在地：韓国・ソウル特別市、以下、韓国小野）が、抗 PD-1 抗体オブジーボ®（一般名：ニボルマブ）点滴静注（以下、オブジーボ）と抗 CTLA-4 抗体ヤーボイ®（一般名：イピリムマブ）点滴注射液（以下、ヤーボイ）との併用療法について、2月23日に治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) またはミスマッチ修復機能欠損 (dMMR) を有する成人結腸・直腸がんに対する効能または効果の追加承認を韓国食品医薬品安全処 (MFDS) から取得しましたので、お知らせします。

今回の承認は、治癒切除不能な進行・再発の MSI-High または dMMR を有する結腸・直腸がん患者を対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験である CheckMate -8HW 試験 (CA209-8HW : ONO-4538-87) において、オブジーボおよびヤーボイの併用療法をオブジーボ単剤療法または治験医師が選択する化学療法*と比較評価した結果に基づいています。本試験において、予め計画された中間解析で2つの主要評価項目のうちの1つである、中央判定で MSI-High または dMMR であることが確認された患者のうち治療歴のない患者における盲検下独立中央評価委員会 (BICR) の評価による無増悪生存期間 (PFS) で、オブジーボとヤーボイの併用療法群は化学療法群と比較して、臨床的に意義のある延長を示しました。また、もう1つの主要評価項目である、全治療ラインの患者における BICR の評価による PFS で、オブジーボとヤーボイの併用療法群はオブジーボ単剤療法群と比較して、臨床的に意義のある延長を示しました。本試験におけるオブジーボとヤーボイの併用療法の安全性プロファイルは、これまでに報告されているものと一貫しており、新たな安全性シグナルは認められませんでした。

*： mFOLFOX6 (5-FU・ホリナート・オキサリプラチン療法)、mFOLFOX6 とベバシズマブもしくはセツキシマブとの併用療法、FOLFIRI (5-FU・ホリナート・イリノテカン療法)、または FOLFIRI とベバシズマブもしくはセツキシマブとの併用療法のうちいずれか1つを選択

CheckMate -8HW 試験 (CA209-8HW : ONO-4538-87) について

本試験は、治癒切除不能な進行・再発の MSI-High または dMMR を有する結腸・直腸がん患者を対象に、オブジーボとヤーボイの併用療法をオブジーボ単剤療法または治験医師が選択する化学療法 (mFOLFOX6 もしくは FOLFIRI、および各々とベバシズマブもしくはセツキシマブとの併用療法) と比較評価した国際共同無作為化非盲検第Ⅲ相臨床試験です。

本試験では、患者約 830 例がオブジーボとヤーボイの併用療法群 (オブジーボ 240 mg およびヤーボイ 1 mg/kg が 3 週間間隔で計 4 回投与され、その後オブジーボ 480 mg が 4 週間間隔で投与)、オブジーボ単剤療法群 (オブジーボ 240 mg が 2 週間間隔で計 6 回投与され、その後オブジーボ 480 mg が 4 週間間隔で投与)、または治験医師が選択する化学療法群のいずれかに

無作為に割り付けられました。患者への投与は、病勢進行または忍容できない毒性の発現が認められるまで継続されました。本試験の2つの主要評価項目は、中央判定でMSI-HighまたはdMMRであることが確認された患者のうち治療歴のない患者において、治験医師が選択する化学療法群と比較したオブジーボとヤーボイの併用療法群のBICRの評価によるPFS、および全治療ラインの患者において、オブジーボ単剤療法群と比較したオブジーボとヤーボイの併用療法群のBICRの評価によるPFSです。

結腸・直腸がんについて

結腸・直腸がんは、全世界における年間新規発症患者数が約192.6万人と3番目に多いがん腫であり、年間約90.4万人の死亡が報告されています¹⁾。韓国では、2022年に年間新規発症患者数が約2.9万人と推定され、年間約1.1万人が亡くなったと推定されています²⁾。

MSI-HighまたはdMMRを有する結腸・直腸がんは、治癒切除不能な結腸・直腸がんの約4%に認められます³⁾。治癒切除不能な進行・再発のMSI-HighまたはdMMRを有する結腸・直腸がんにおいて、従来の化学療法による治療効果は十分ではなく、新規治療薬の開発が期待されています。

- 1) : Globocan 2022. Available at: <https://gco.iarc.fr/today/en/fact-sheets-populations>
- 2) : <https://gco.iarc.who.int/media/globocan/factsheets/populations/410-korea-republic-of-fact-sheet.pdf>
- 3) : Front Oncol. 2021;11:764912. Published 2021 Nov 15. Doi:10.3389/fonc.2021.764912

オブジーボについて

オブジーボは、programmed cell death-1 (PD-1) とPD-1リガンドの経路を阻害することで身体の免疫系を利用して抗腫瘍免疫応答を再活性化するPD-1免疫チェックポイント阻害薬です。がんを攻撃するために身体の免疫系を利用するオブジーボは、日本で2014年7月に悪性黒色腫で承認を取得以降、複数のがん腫において重要な治療選択肢となっています。現在、日本、韓国、台湾、米国およびEUを含む65カ国以上で承認されています。

日本では、小野薬品が2014年7月に根治切除不能な悪性黒色腫の効能または効果で承認を取得し、2014年9月に同適応症で発売しました。

その後、2015年12月に切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、2016年8月に根治切除不能又は転移性の腎細胞がん、2016年12月に再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫、2017年3月に再発または遠隔転移を有する頭頸部がん、2017年9月にがん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌、2018年8月にがん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫、2020年2月にがん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する結腸・直腸がん、がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道がん、2021年12月に原発不明がん、2022年3月に尿路上皮がんにおける術後補助療法、2023年11月に悪性中皮腫（悪性胸膜中皮腫を除く）、2024年2月に根治切除不能な進行・再発の上皮系皮膚悪性腫瘍、2025年6月に切除不能な肝細胞がんの効能または効果の追加承認を取得しました。

ヤーボイについて

ヤーボイは、細胞傷害性Tリンパ球抗原-4 (CTLA-4) に結合する遺伝子組換えヒトモノクローナル抗体です。CTLA-4は、T細胞の活性化を抑制する調節因子です。ヤーボイはCTLA-4と結合し、CTLA-4とそのリガンドであるCD80/CD86との相互作用を阻害します。CTLA-4が阻害されると、腫瘍浸潤エフェクターT細胞の活性化と増殖などの、T細胞の活性化と増殖が促されることが明らかになっています。また、CTLA-4のシグナル伝達が阻害されると、制御性T細胞の機能が低下し、抗腫瘍免疫応答を含むT細胞の反応性が全体的に向上する可能性があります。

2011年3月25日、米国食品医薬品局 (FDA) は切除不能または転移性悪性黒色腫を適応とし

て、ヤーボイ 3 mg/kg 単剤療法を承認しました。現在、ヤーボイは切除不能または転移性悪性黒色腫の治療薬として 50 カ国以上で承認されています。ヤーボイに関しては、複数のがん腫で、幅広い開発プログラムが進められています。日本においては、2015 年 7 月に、根治切除不能な悪性黒色腫を適応とする製造販売承認を取得しました。

小野薬品工業株式会社とブリストルマイヤーズスクイブの提携について

2011 年、小野薬品は、ブリストルマイヤーズスクイブ (BMS) と締結した提携契約により、当時、小野薬品がオプジーボに関するすべての権利を保有していた北米以外の地域のうち、日本、韓国、台湾を除く世界各国におけるオプジーボの開発・商業化に関する権利を供与しました。2014 年 7 月、小野薬品と BMS は、この戦略的提携契約をさらに拡張し、日本、韓国、台湾のがん患者さん向けに複数の免疫療法薬を単剤療法および併用療法として共同開発・商業化することを合意しました。

韓国小野薬品工業株式会社（韓国小野）について

韓国小野は、2013 年 12 月に設立された小野薬品工業株式会社の 100%出資の現地法人です。韓国小野は、韓国での自販体制を構築し、2015 年から抗 PD-1 抗体/抗悪性腫瘍剤、オプジーボ等の自社販売を行っています。韓国の患者さんにアンメット・メディカルニーズを満たすさらなる革新的な医薬品を一日も早くお届けできるよう、新規医薬品の開発、販売に取り組んでいます。

以上

<本件に関する問い合わせ>

小野薬品工業株式会社

広報部

TEL: 06-6263-5670